

# 滋賀県平和祈念館 年報

第 7 号

(平成 30 年度)

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成 24 年 3 月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として、県民のみなさまの大きな期待と希望をになって開館しました。

はやくも開館以来、7 年が経過しました。この間の来館者総数は 16 万 4 千人を超え、出前学習利用者を加えると 23 万弱の人びとが祈念館をご利用になったこととなります。これもひとえに県民のみなさまのご支援のたまものと深く感謝申し上げます。

この間の本館の活動については、『滋賀県平和祈念館 年報』第 1 号を平成 25 年 12 月に刊行し、その後は各年度の活動について、それぞれ『年報』にまとめ、報告したところです。本号では、ひきつづき平成 30 年度の活動をまとめています。

本館の運営にあたっては、「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という三つの基本方針のもとで、県民の戦争体験を継承する事業として、展示事業をはじめ、資料収集保存、普及啓発、平和学習支援、ボランティア活動支援などの諸事業を展開しています。

平成 30 年度の展示事業としては、第 20 回企画展示『戦場となった滋賀 - 県下の戦争遺跡 - 』を開催しました。これは本館が平成 29 年度におこなった県下の「戦争遺跡分布調査」の報告書にもとづいて企画されたものです。秋冬に入ってから第 21 回企画展示『戦場より故郷の家族へ - 戦没者の手紙 - 』、第 22 回企画展示『戦時下の村と陸軍飛行場』のほか、『ヒロシマ・ナガサキミニミニ原爆展』などを開催しました。そして戦争体験聞き取り調査や収集資料の整理は引きつづき精力的に続けられています。

平成 30 年度の普及啓発事業では、吉田裕一橋大学特任教授による『日中戦争からアジア・太平洋戦争 - 戦場の実態にもふれつつ - 』の平和学習講座、原田敬一佛教大学教授による『大人のための歴史教室』を開催しました。また、年々参会者が増えすっかり本館の行事として定着した『戦争体験を聞く会』および『映画上映会』を毎月開催しました。戦争体験者の映像記録の事業も着実に進み、常時公開しています。

一方、子供向けの事業として『へいわの学校あかり』の通年開催、そして平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクールも実施することができました。また実験的に『語り部次世代育成講座』を開催し、その試行錯誤から次年度に向けた新たな方針を検討しつつあります。

平和学習支援事業では、児童生徒の来館学習や出前講座にくわえて、パネル展示などをつうじた地域への平和学習支援もおこなっています。本館ではボランティア活動もさかんで、現在の登録メンバーは 49 名で主に、8 つのグループ活動があり、本館のさまざまな事業で協働がすすんでいます。

以上、平成 30 年度の活動を報告しましたが、平成の『年報』は本誌で終わります。次なる報告は「令和」の『年報』となりましょう。これからも本祈念館の運営にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

## 目 次

はじめに .....	1
<b>I 事業概要</b>	
<b>1 展示事業</b>	
(1) 企画展示 .....	3
(2) 企画展示関連事業 .....	13
(3) 特別企画展示 .....	14
(4) 地域交流展示 .....	15
(5) その他の展示 .....	17
<b>2 資料収集保存事業</b>	
(1) 戦争体験聞き取り調査 .....	19
(2) 収集資料の整理・保存 .....	20
<b>3 普及啓発事業</b>	
(1) 平和学習講座「人間爆弾『桜花』比叡山基地までの道」 .....	21
平和学習講座「日中戦争からアジア・太平洋戦争へ - 戦場の実態にも ふれつつ - 」 .....	22
(2) 大人のための歴史教室「漫画の中の戦争」、「小説の中の戦争」 .....	22
(3) 戦争体験を聞く会 .....	23
(4) 戦争遺跡見学フィールドワーク「八日市布引丘陵・掩体壕群学習講座 &現地見学会 .....	27
(5) 平和を祈念する日事業「未来へ語り継ごう ～『私』から『あなた』 へ～」 .....	28
(6) 開館7周年記念事業 .....	30
(7) 館長講座「自分史づくり講座」 .....	32
(8) 館長講座「語り部次世代育成講座」 .....	32
(9) 映画上映会 .....	32
(10) 平和の学校あかり .....	33
(11) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール .....	39
<b>4 平和学習支援事業</b>	
(1) 来館学習の支援 .....	42
(2) 出前授業 .....	43
(3) 地域への平和学習支援 .....	43
(4) 資料の貸出による平和学習支援 .....	44
(5) 戦争体験者証言映像の制作 .....	46
<b>5 ボランティア活動支援事業</b> .....	47
<b>II 資料</b>	
1 利用状況 .....	51
2 広報活動 .....	55
3 組織 .....	57
4 決算 .....	58
5 施設概要 .....	59
6 利用案内 .....	60
7 関係規程 .....	61

## I 事業概要

### 1 展示事業

#### (1) 企画展示

##### 第20回企画展示「戦場となった滋賀 - 県下の戦争遺跡 -」

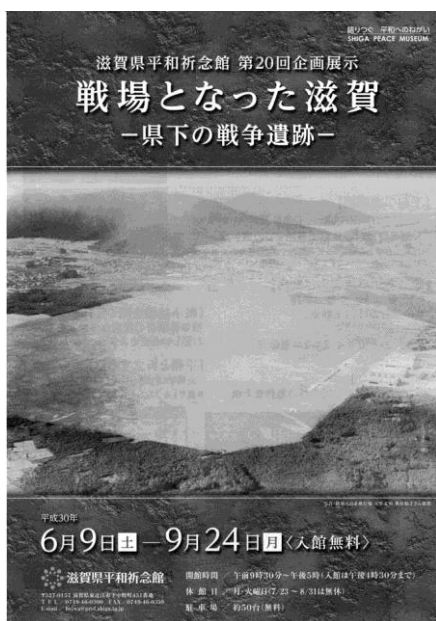
○会期 平成30年(2018年)6月9日～9月24日

○会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

○開催趣旨と概要

趣旨： 戦争末期に米軍による本土攻撃が避けられないところまで追いつめられた日本。軍部は国内の軍隊・軍事施設を増強し、地下陣地・塹壕や避難壕を設置して、本土決戦の準備をはじめていた。一方米軍も本土上陸にさきだつて、都市や鉄道・港湾施設などを標的に激しく空襲した。本土では地上戦にいたらなかったものの、国民の暮らしの場が戦場へと変わりはじめており、そのことは滋賀県でもかわらなかった。

今回は、当館が戦争遺跡分布調査報告書にまとめた戦争遺跡の中から顕著な遺跡を抽出し、軍事施設・空襲・避難壕に分けて紹介した。



第20回企画展示チラシ



展示の様子

概要：

#### 【プロローグ】

陸軍八日市飛行場の全景を撮影した唯一の写真をオープニングにおき、滋賀県を代表する戦争遺跡である陸軍八日市飛行場の数少ない遺品として、正門内側にあったという銅板「誓詞」と飛行場内建物の屋瓦を冒頭に配置した。

## 【軍事施設】

展示紹介した軍事施設は、陸軍では八日市飛行場、大津歩兵第九連隊（少年飛行兵学校）、饗庭野演習場、舟木飛行場、海軍では比叡山桜花発射訓練基地、滋賀海軍航空隊、大津海軍航空隊、天虎飛行訓練所、同菖蒲分所、木曾飛行場である。

現地に遺構が残されているケースは少ないため、古地図、および終戦直後と現在の空中写真により施設の位置と形状を示した。そのほか、施設に関係する古写真、現地に痕跡的に遺構が残されている場合はその現状写真を示して紹介した。

米軍が撮影した大津空に飛行機を並べた写真、そして、戦後、進駐軍がキャンプにした少年飛行兵学校と大津・滋賀海軍航空隊の写真は、戦後に撮影されたものではあるが軍事施設の生々しいようすを紹介することができた。



## 【射撃場・捕虜収容所】

軍事施設としても民間施設としても存在した射撃場は、山林中に設置されたのでよい状態で保存されていることがある。県下には6か所の射撃場跡に遺構が残されている。現状の写真とともに、八幡北ノ庄射撃場の設置工事のようすを撮影し



た絵はがきの画像を拡大して紹介した。

県内に3か所設置された捕虜収容所は、戦争末期に干拓工事に従事させるために陸軍が設置したものである。

### 【空襲】

5月から8月上旬に彦根・八日市・大津などを襲った艦載機による空襲を体験談で紹介し、場所を古地図や空中写真で示すとともに、日本の「戦災概況図」と米軍の空襲レポートをあわせて紹介して、空襲の実態を立体的に俯瞰することを試みた。また、守山市の民家に残っていた弾痕の残る部材を立体的に展観した。



### 【避難壕】

滋賀県を代表する顕著な戦争遺跡である岩脇機関車避難壕を中心に、軍需工場が疎開した廃トンネルや現用トンネル、大津海軍航空隊が掘削した壕跡を現状写真で紹介した。



**【みぢかな戦争遺跡】**

戦時の生活をしのばせる遺跡として、松脂を採集した痕跡と、防空のために白壁に墨を塗った倉庫の写真を展示し、来館者に情報提供を呼び掛けた。松脂の採集痕は真田義之氏の協力により紹介できたものである。

## 第21回企画展示「戦場より故郷の家族へ - 戦没者の手紙 -」

○会期 平成30年(2018年)9月30日～12月24日

○会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

○開催趣旨と概要

趣旨： 戦前の日本では20歳の男性が兵士として徴集されたが、戦争が始まると20歳代なかば以上の男性も招集を受けるようになった。すでに出征経験のある人でも二度、三度と出征することは普通であった。こうした年齢の人々は、すでに結婚して幼い子どもがおり、大黒柱として、あと取りとして家族から頼りにされた人々であった。先の大戦では、こうした人々が戦場へかり出されたのである。

今回は戦場で亡くなった方を中心に、彼らが故郷へ書き送った手紙を多数紹介した。



第21回企画展示チラシ



展示の様子

概要：

### 【プロローグ】

戦場の将兵が故郷に書き送った手紙やはがきは軍事郵便として内地に配送された。軍事郵便は無料だったが、必ず検閲がはいった。展示の冒頭では軍事郵便の制度を紹介した。



### 【父へ 家族へ】

9名の方の手紙とはがきを紹介した。ノモンハンの戦闘中に高橋克己さんが死を覚悟して母あてに書いた手紙には、自分が死んだら「誰よりも一番泣いて下さい。そして一時も早くあきらめて下さい」と書かれていた。



### 【妻へ 子どもへ】

4名の方の手紙とはがきを紹介した。若い妻へ愛情に満ちた手紙、子の顔を見ずに出征した夫が妻に対して写真を送るよう何度も催促した手紙、家業をまかせた妻に対して助言と励ましを送った手紙などがある。幼い子どもが読めるよう、カタカナで書かれたはがきもあった。



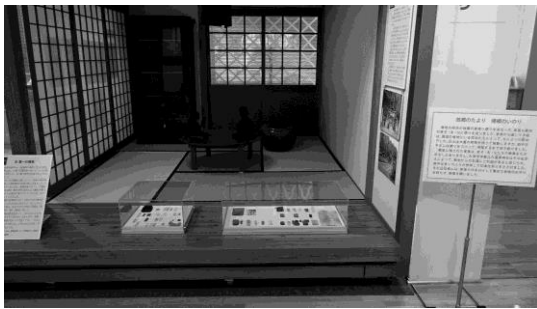
### 【母へ】

4名の方の手紙とはがきを紹介した。病弱な父の世話をする母のからだを気遣う手紙がいたいたい。母子家庭でありながら飛行兵に志願した高橋亮一さんには予科練時代から操縦士として実戦にでるまでの手紙が残されている。



### 【故郷のたより 帰郷のいのり】

戦場の将兵にとって家族から送られてくるたよりはなにもものにも代えがたい慰めであったという。家族や友人から送ってきた手紙やはがきを復員するまで持ち歩いた人もいた。ここでは田中五平さんが戦場を持ち歩いた「故郷の便り集」という1冊にとじた手紙集を展示した。また、無事に帰還することを祈って全国から買い集め、出征者に持たせた数多くのお守り2件と、神社の名称から戦場からの帰還にご利益があると信じられた大津市の還来神社のようすを体験談で紹介した。



## 第22回企画展示「戦時下の村と陸軍飛行場」

- 会期 平成31年（2019年）1月9日～6月2日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 開催趣旨と概要

趣旨： 地元が官民あがて誘致運動をくり広げた八日市飛行場は、陸軍航空第三大隊が大正11年（1922年）1月に当地で開隊されたことにより、正式に開設した。地元が期待したとおり、飛行場の開設は街の経済を活性化するとともに、深刻な農業不況におちいつていた農村部にとっても安定した就職先を提供した。今回は、農村に生まれた人々に焦点をあわせて、彼らが戦時体制に組み込まれ、激化する戦争にまき込まれていったようすを紹介した。



第22回企画展示チラシ 表面



展示の様子

概要：

### 【プロローグ】

八日市に陸軍飛行場が設置された経緯と、飛行場をめぐる愛知川流域の当時の農村と農業のようすを、解説パネルと古地図と当時の写真で紹介した。

### 【大阪陸軍航空廠八日市分廠】

八日市飛行場において周辺住民の就職先となったのは、飛行機の整備工場である八日市分廠だった。ここで働く整備技術者は軍属という身分であり、職員は一般から募集されていた。ここでは地元に住み、分廠で働いていた小森章次さんらの体験談から、分廠の仕事内容や当時職場で起こった事件を紹介した。



### 【増産と供出に追われた村】

食糧の増産と供出の厳しさを語られることの多い戦時下の農村分生活について、多角的な観点から見直すことを試みた。ここでは、戦争中に自然災害に見舞われたようす、その復旧に駆り出された食糧増産隊（高等小学校卒業生を組織）の活動のようすを高瀬正一郎さんの絵と青木安司さんの体験談で紹介した。また、旧水口町和野で災害復旧工事に助力した食糧増産隊が工事中に事故に遭い死者を出したようすとその石碑を紹介した。また、軍農会の指導技術者として神崎郡内を走り回った藤川誠一郎さんの体験談を紹介し、戦時下の農業のあり方の一端を示した。



### 【戦争末期の八日市分廠】

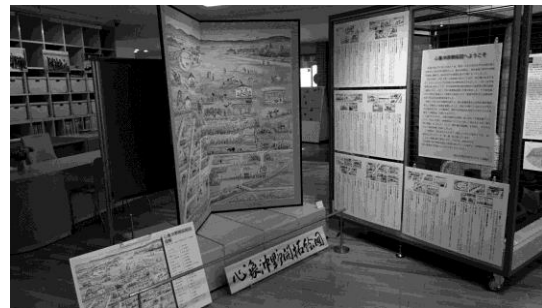
戦争末期には、八日市飛行場は飛行機の大型化に対応して拡大され、高圧的な土地買収が実施されて、多くの田畑を失った。また、八日市分廠の機能と飛行機は空襲を避けるために周辺各地に分散疎開した。

終戦後、飛行場は進駐軍に接收され、武器と飛行機は焼却された。こうした終戦前後のようすを体験談で紹介した。



### 【戦後の飛行場】

軍隊が消滅したあとの飛行場は農林省の管轄となり、戦後も続いた食糧難と大量の復員者の定着先を確保することを目的として開拓されることになった。もともと農業に適さない土地を開拓することには大変な苦勞があった。御園村役場で飛行場の開拓事業を担当した小森章次さんの手記で紹介した。そして、入植者村であった沖野のまちづくり協議会が制作した「心象沖野開拓絵図」を展示した。



## (2) 企画展示関連事業

### ○第 20 回企画展示関連

平和学習講座「人間爆弾『桜花』比叡山基地までの道」

- ・ 講師 藤原 耕（豊の国宇佐市塾）
- ・ 開催日時 平成 30 年（2018 年）7 月 1 日（日）13：30～15：00
- ・ 参加者 74 名
- ・ 事業概要 米国国立公文書館等に所蔵された映像・公文書より、米軍から見た「桜花」、そして比叡山「桜花」基地についての映像と共に上映・解説していただいた。

### ○第 22 回企画展示関連

戦争遺跡探訪会「探訪 陸軍飛行場と掩体群」

- ・ 開催日時 平成 31 年（2019 年）3 月 21 日（木）9：00～12：00
- ・ 参加者 29 名
- ・ 事業概要 布引丘陵に残る旧陸軍八日市飛行場の掩体群の遺跡と飛行場本部跡まで、飛行場を南北に縦断する探訪ツアーを実施した。近江鉄道大学前駅を集合地点とし、掩体群、芝原揚水機場、旧飛行場入植者が建てた「拓魂」碑を経て、冲原神社・旧八日市鉄道飛行場駅跡、「陸軍飛行第三聯隊跡」碑を終点とした。（全行程約 7km）

### (3) 特別企画展示

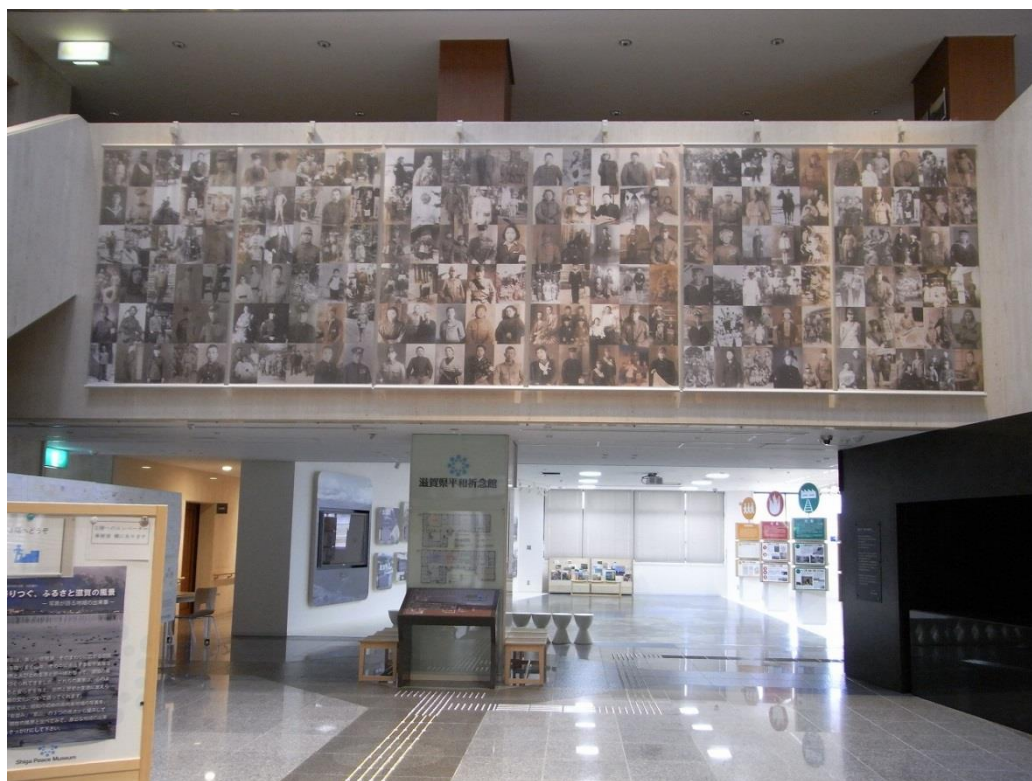
#### 第7回特別企画展示 「群像」

○会期 平成30年（2018年）4月1日～平成31年（2019年）3月31日

○会場 滋賀県平和祈念館エントランス

○開催趣旨

滋賀県平和祈念館は、戦争体験とそれらにまつわる当時の資料の収集・保管・展示や平和学習を通して、戦争体験者それぞれの想いや平和への願いを次世代へと伝えていく施設であることから、基本理念のひとつである「モノと記憶の継承」の象徴として、時代に翻弄されながらも、懸命に戦時を生き延びた人びとの写真を集めた6枚のパナーを展示した。



特別企画展示 タペストリー



#### (4) 地域交流展示

##### 「新作 戦争体験者 証言映像 2017 上映」

○会期 平成 30 年（2018 年）4 月 4 日～7 月 1 日

○開催趣旨

昨年度制作した戦争体験者証言映像をより広く県民の皆さんに知ってもらおうと視聴スペースを設けて常時上映した。同時に、証言された 5 名の語る内容を紹介するパネルを展示した。



戦争体験者証言映像上映の様子

##### 「ヒロシマ・ナガサキミニミニ原爆展」

○会期 平成 30 年（2018 年）7 月 4 日～9 月 2 日

○開催趣旨

長崎原爆資料館から、「ミニミニ原爆展」開催用のデータを借用して、原爆被害の概要及び広島・長崎の被災資料写真、被爆後の惨状写真、被爆者の写真など 20 点を展示した。



ミニミニ原爆展の様子



## 「戦時中の体験 触れる 感じる そして考える」

○会期 平成 30 年 (2018 年) 9 月 5 日～12 月 24 日

○開催趣旨

背嚢を背負った時の重さ体験や国民服の試着、瓶搗き精米など体験を通して学ぶ展示を実施した。



体験型学習展示の様子

## 「県内小中学校平和学習 子どもたちの足跡展」

○会期 平成 31 年 (2019 年) 1 月 7 日～3 月 31 日

○開催趣旨

各校で行われた平和学習の成果物（模造紙にまとめたものや新聞、ポスターなど）を展示した。また、9～12 月に来館した学校の児童生徒に書いてもらったピースメッセージ（36 校 1,789 枚）を展示した。



子どもたちの足跡展の様子

## (5) その他の展示

### 「奉安庫」常設

- 会期 平成 26 年（2014 年）6 月 28 日～
- 展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 研修室横壁面
- 開催趣旨

当館の常設展示資料として、大津市立上田上小学校より寄贈いただいた奉安庫を設置した。戦前の学校では、明治の終わり頃から、紀元節、天長節、新年、明治節の国家祝賀式典には、宮内省から各学校に貸与された天皇と皇后の写真（以下、「御真影」）に最敬礼し、「教育勅語」を奉読する儀式が執り行われていた。この儀式の際に使用する「御真影」と「教育勅語」を納める奉安所として、各学校の講堂や校長室などに奉安庫が設置された。

大津市立上田上小学校の奉安庫は、昭和 8 年（1933 年）10 月 7 日に竣工された講堂に設置されていたが、昭和 58 年（1983 年）、講堂が老朽化のために解体された際に奉安庫の枠のみ取り出し、校舎の階段の踊り場に移設された。平成 25 年（2013 年）には、設置されていた校舎の改修が決まったため、当館へ寄贈いただいたものである。



奉安庫展示

## 「平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール作品展」

○会期 平成 30 年（2018 年）11 月 3 日～平成 31 年（2019 年）1 月 31 日

○展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 ギャラリー

○開催趣旨

次世代を担う子ども達が、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子ども達が描く絵画を通して、広く県民に平和への想いを伝えることを目的として実施した。

優秀作品 6 作品を含む応募のあったすべての作品を展示した。



優秀作品の展示の様子



応募全作品の展示の様子